

2025 年度 成城大学大学院 文学研究科Ⅱ期 入学試験問題

ヨーロッパ文化専攻 博士課程前期

《小論文》

研究分野ごと、研究者ごとの方法論によって、研究対象との間に保つべき適切な距離については、様々な考え方がある。一つの極として、研究対象からできるだけ距離を置き、疎遠な態度で客観的な分析を心がけるような研究態度があるとするれば、もう一つの極として、研究対象に密着しまた共感して、対象と一体化することを理想とするような研究態度というものもあるだろう。そして、これら二極間には、ニュアンスに富んだ様々なヴァリエーションがあると思われる。

これを踏まえ、あなた自身が所属するつもりの研究分野における一般的な方法論を念頭に置いた上で、あなた自身がこれから研究対象との間に保とうとする距離について、自分の考えをできるだけ具体的に述べなさい。

なお、分量は解答用紙の表に収まる程度とするが、紙幅が足りない場合には裏面も用いてよい。

以上